

地元が元気があふれる！

大谷吉継公

振興プロジェクト始動

吉継サミットで人気を実感、町おこしへの思いが膨らみ発足

2026年2月に地元有志により発足した市民団体「つるが大谷吉継公振興プロジェクト」。敦賀城主を務めた戦国武将・大谷吉継の魅力を発信しようと、地元商店主や学芸員らが中心となって活動しています。

発足のきっかけは昨年8月に敦賀市立博物館で開かれた「吉継サミット」です。大谷吉継公生誕460年を記念したイベントには、悪天候にもかかわらず主催者側の想定を超える約500

名の来場者が詰めかけました。地元商店街で駄菓子店を営む大石修平さんはサミットに出展し、その盛況ぶりを目の当たりに。「吉継人気の大きさを実感しました」と話します。

一方、博物館の学芸員で、サミットの企画・運営を担当した北村太智さんは「大谷吉継は岐阜県など県外では大人気の武将なのに、敦賀駅に来てても吉継公の旗も銅像もない。このままでいいのか」という思いを抱いていました。

また、地元商店街でプリントショップを営む乗名伸次さんは、2008年頃から独自に大谷吉継グッズを製作・販売。「当時の歴女ブームの流れを受け、敦賀の武将をもっと知ってもらいたいと思った」と、個人で地道なPR活動を続けてきました。

それぞれの立場で吉継公の魅力発信に可能性を感じていた3人がサミットをきっかけに交流を深め、「吉継公で町おこしを」と意気投合。乗名さんを会長としてプロジェクトを立ち上げました。

オリジナルグッズで吉継公の魅力をPR

活動の中心は、イベント出展や署名活動です。オリジナルグッズによるPRにも力を入れており、大谷吉継公の

書状を忠実に再現したハンカチや、気比の松原の倒木を有効利用したコースター、敦賀市公認キャラクター「よっしー」をあしらったお菓子など、グッズにはどれも「敦賀らしさ」と「吉継愛」が詰まっています。

3人に吉継公の魅力を訊ねると、「義に厚く、自分より他人を大切にす男気のある武将」(乗名さん)、「天下の行く末を考えて行動した視野の広さ」(大石さん)、「最後まで逃げずに命を散らした潔さ」(北村さん)と、それぞれに異なる意見が返ってきました。歴史上の英雄としてだけでなく、人としての生き方にも共感していることが伝わり

プリントをオン、オフ、カラー、モノクロ、多色印刷など、さまざまなデザインで吉継公の存在をPR。書状を再現したハンカチやコースター、お菓子など、さまざまなグッズで吉継公の魅力をPR。



4月29日に開催された「吉継の日特別企画」に出展。グッズを買い求めたり、署名に参加したりする人々で賑わう。

大河ドラマの主人公を目標に、5万筆の署名を目指す

そんな吉継公ですが、実は地元での認知度は決して高いとは言えません。だからこそ、「まずは敦賀市民に吉継公の魅力を伝え、誇りに思ってもらいたい」というのが、プロジェクトの目の目標です。さらに大きな夢は「吉継公を主人公とした大河ドラマの実現」(吉継公がかつて5万石を領したこと)にちなみ「5万筆の署名目標」。「敦賀といえは大谷吉継」と全国の人に思い浮かべてもらえるようになればうれしい」と乗名さん。

今後は県内外のイベントへの出展に加え、敦賀市の協力も得ながら、吉継公ゆかりの地を巡る周遊企画などにも取り組むみたいと意欲を燃やしています。

この記事に関するお問い合わせ
つるが大谷吉継公振興プロジェクト
tsugupro2025@gmail.com



(左から)大石修平さん、乗名伸次さん、北村太智さん。3人が中心となり、「つるが大谷吉継公振興プロジェクト」を発足。